



Title	授業でTA制度を活用するコツ
Author(s)	堀, 一成; 家島, 明彦
Citation	大阪大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) フォーラム報告書. 2016, 27, p. 133-156
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56636
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

研修 C

「授業で T A 制度を活用するコツ」

配付資料

授業でTAを活用するコツ



大阪大学
全学教育推進機構
全学TARAあり方検討WG委員
堀 一成

教育学習支援センター
家島 明彦

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

1



本日の内容

- **ワーク1** 自己・事例の相互紹介
- 大阪大学のTA制度の変遷
- 新しいクラス化TA制度
- STA、TFについて
- TAにうまく働いてもらうために
- **ワーク2** 今後の改善アイデア共有



1. ワーク1

自己紹介・事例相互紹介

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

3



これまでのTA活用で うまくいった点、いかなかった点

ワークシートの上半分を使い、
これまでのTA活用経験で
うまくいった点、うまくいかなかった点
を書き出してください。(10分)
TA活用未経験の方は、
うまくいくと予想される事、
困難が予想されることで構いません。

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

4



ワークシートに基づいて

自己紹介・事例紹介(各自3分まで)

自己紹介(所属・名前・研究内容)と、ワークシートに書きだした事例紹介をお願いします。司会がメモします。
一人、3分以内で収まるよう
ご協力をお願いします。



2. 大阪大学のTA制度の変遷

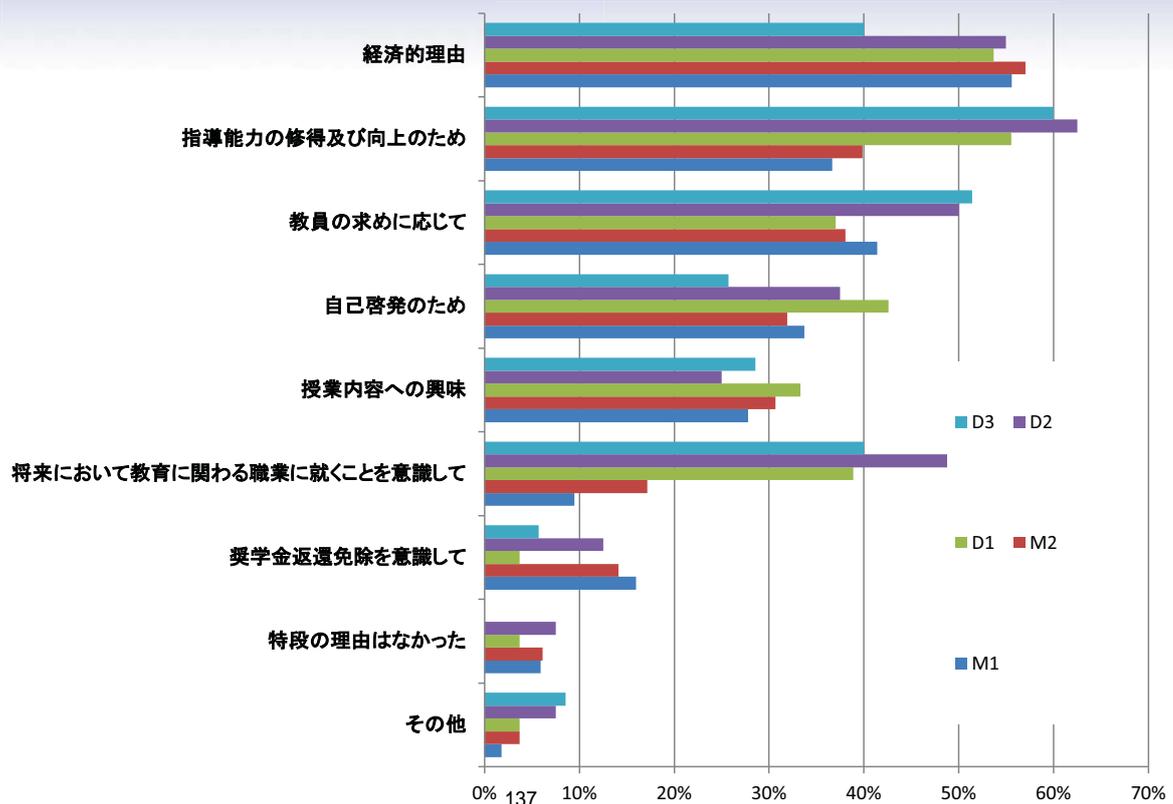


TA制度改革の経緯

- 2010年6月 TA・RAあり方検討ワーキング設置
(教育・情報室のもと)
- 8, 9月 4大学訪問調査: 東北、愛媛、北海道、筑波
- 10月 **学内アンケート:**
教員(321名回答)、TA(480名)
→ **新制度設計**
- 2011年2月 シンポジウム「TA制度とキャリア教育への展開」
- 2011年4月 **STA制度試行開始**
- 2012年3月 **新TA制度本格実施**
- 2013年12月 シンポジウム「STA制度の導入による
大阪大学の教育力向上
—大学院生のキャリアアップを目指して—」
- 2015年4月 **TF制度試行開始**

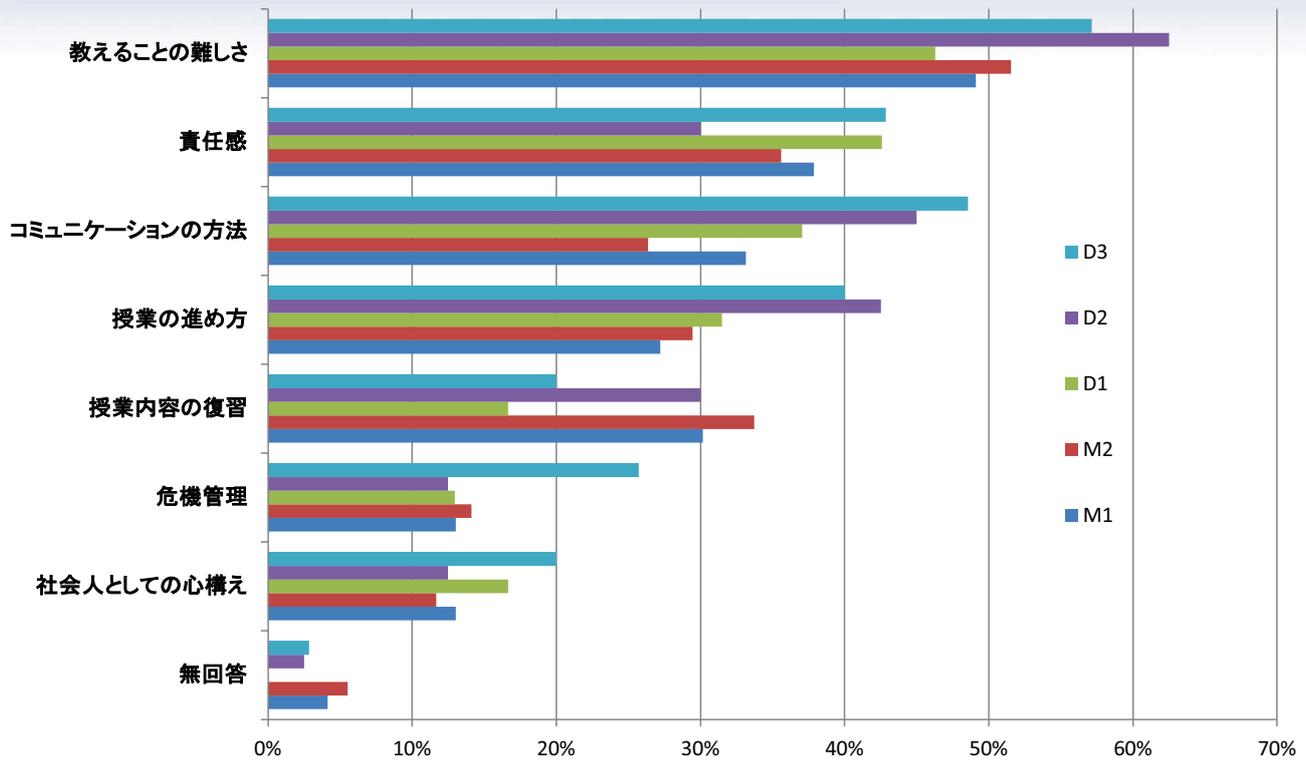


TA従事理由 (2010年アンケート)





TA経験で学んだこと(2010年アンケート)



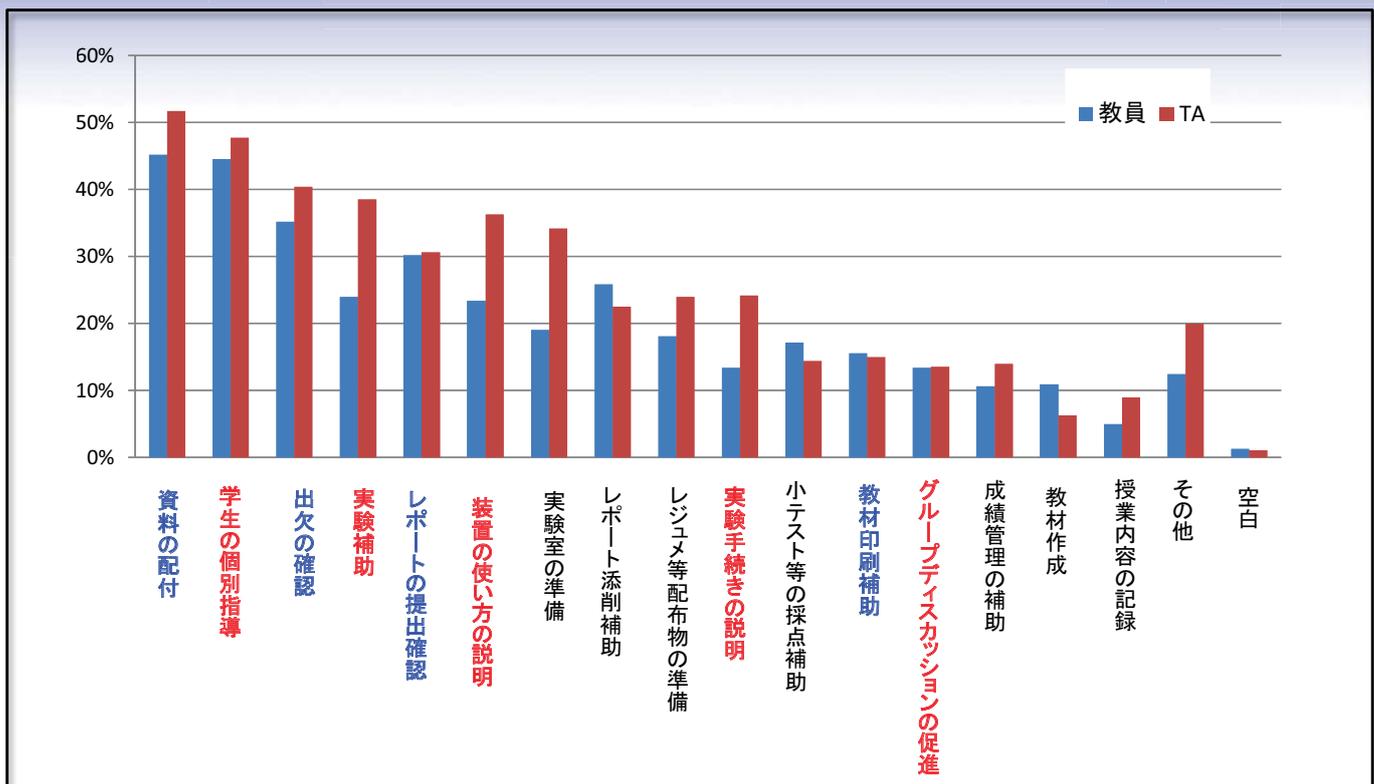
2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

9



教育的指導能力を必要としない業務も多い



2010年アンケート結果

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

138

10



TAが従事していた業務

- 文系は「配付物の準備」が相対的に高い。
- 理系・医歯薬系の実験では「実験室の準備」「装置の使い方の説明」「実験手続きの説明」「実験補助」が相対的に高い。
- 「資料の配付」は文理医を問わず多い。



アンケートからわかったこと

TAは大阪大学の教育を支えている
特に、共通教育では必須

しかし、いくつかの課題も見えてきた

⇒ 新しい制度へ



3. 新しい（クラス化）制度 2012年度～

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

13



大阪大学のTA制度見直しのポイント

TA業務の明確化と効率化

クラス化TA制度： SA、JTA、**STA**、**TF**
限られた予算を有効活用するために
業務内容に応じたTAを選択

STA、TFによるキャリア教育の拡大

教育者としてのスキルアップと自覚
教育実績

授業方法の多様化・効率化

従来の概念を超えるTA活用法、教育内容

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

14



大阪大学におけるクラス化TA制度

	育成する能力・目的		業務内容	対象身分	
スチューデント・アシスタント (SA 新設)	経済的支援	教育指導能力	教育に関連する単純作業を担当する(出欠、資料印刷など)	学部学生・大学院生	
ジュニア・ティーチング・アシスタント (JTA 既存+名称変更)			教員の指導のもと、教育補佐業務を行う	大学院生・学部学生のうち5年生以上の特に認められた者	
シニア・ティーチング・アシスタント (STA 新設)			教育企画能力	教員の指導のもと、補助的な教育業務の内容を自ら計画して支援することを、主たる業務内容とする	大学院生(博士後期課程(博士課程)のうち特に認められた者)
ティーチング・フェロー (TF 将来的に導入を検討)			教育展開能力	教員の指導のもと、教員に準じる教育業務を行う(ただし、最終結果についての責任は除外)	ポスドク・大学院生(博士相当)など



教育指導能力 (TAに求める)

- 定型化された方法による教育的活動における指導が行える能力**
 (従来の雑用係でないTAのイメージ)



教育企画能力（STAに求める）

- 教育の断片的な（例えば、90分1コマ）
目標と評価方法を設定し、
それらの内容を改善していくことが
できる能力
（教員の仕事にチャレンジ）



教育展開能力（TFに求める）

- 教育の全体的な目標と
評価方法を立案し、
それらの内容を
具体的に展開できる能力
（教員に準じる立場）



区分と報酬額の変更

2012年度から

これまで

TA

前期課程生: 1200円/時間
後期課程生: 1400円/時間



一般のアルバイトは
950円/時間

SA	学部学生	950円/時間
	前期課程生	950円/時間
	後期課程生	950円/時間
JTA	5, 6年生(医歯薬)	1200円/時間
	前期課程生	1200円/時間
	後期課程生	1300円/時間
STA	後期課程生	1600円/時間
TF	後期課程生、ポスドク(2015年度)	1800円/時間



4. STAについて



S T A

(Senior Teaching Assistant)

- 教育企画能力:(再掲)**
 教育の断片的な(例えば、90分1コマ)目標と評価方法を設定し、それらの内容を改善していくことができる能力
教員の仕事にチャレンジ
- ただし最終結果(成績)についての責任は除外
- 博士後期課程の学生に限定**
TA経験(他大学も可)が18時間以上あること
STA研修を受講済みであること
- 時給 1,600円



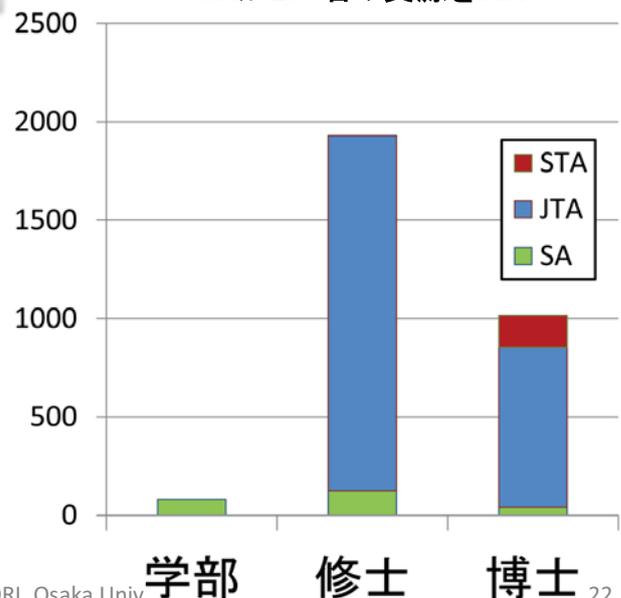
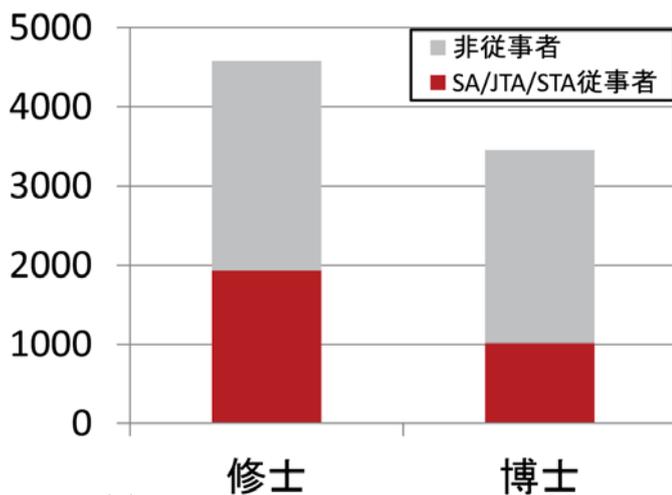
TA従事者数の実績(2012年度)

SA/JTA/STAを経験した人数

全修士院生4578名中1930名(42%)
 全博士院生3457名中1061名(29%)
 そのうちSTAは161名(4.7%)
 TA従事者の**16.5%**

キャリア教育の一環とするなら、
 従事者割合はまだまだ低い
STAの割合が大変低い

SAが250名→資源をSTAへ





当初STAが増えなかったのは？

STAとJTAとの違いがよくわからない
特別な業務を用意するのか？

STAを増やせばTAの総数を減らさざるを得ない
予算が限られている
TAの数が減ったら授業が成り立たない



STAの効果はどのようなのか？

新たなTA活用例として認知

- 教員がSTA制度の趣旨を良く理解し、学ぶ機会を作っている
- 学生はJTAの時とは違う意識で取り組んでいる

その結果、授業の質が向上している



業務報告書につづられた体験談をいくつか紹介します

シニア・ティーチング・アシスタント (STA) 業務報告書

研究科	専攻	学年	学籍番号	氏名
担当授業の所属科目	学期・研究科	専攻・学年	年次	
担当授業科目名				
授業期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			
週の授業時間数	時間			
授業内容				
授業を遂行する上で工夫した点				
身についた能力				
今後の課題				
特記事項 (記載自由)				
授業担当教員	印			
教員コメント				



業務報告書

学期末に提出

ふり返り

教員のコメントも必要

別紙参照



STAとしての自覚の効果

- 業務内容がJTAと特別に違う訳ではない場合もある

でも

- 学生自身がJTAの時とは違う意識で取り組んでいる

その結果、授業の質が向上している



5. TFについて



TF (Teaching Fellow) の導入

- **教育展開能力:(再掲)**
教育の全体的な目標と評価方法を立案し、
それらの内容を具体的に展開できる能力
教員に準じるポジション
- 数回以上の講義・演習を担当を想定
- ただし**最終結果(成績)についての責任は除外**
- 2015年度試行中、
2016年度より本格実施予定



6. TAに対するサポート 研修・訓練・養成について

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

29



大阪大学TAハンドブック

- TAの職務上の注意や心掛けを解説
 - TAの役割
 - TAが担当する業務の範囲
 - TAとして常に心がけておくこと
 - TAの体験談（JTA、STA別）
- 最新バージョンは平成26年2月版
- 大阪大学リポジトリOUKAで公開
<http://hdl.handle.net/11094/26838>

2015/9/7,8

148
(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

30



STA研修

- STA従事希望者は就任前に必ず受ける
現在年2回(3月、9月)
- **STAの仕事の基礎能力を養う**
 - ◎ STAとJTAの違い(制度説明)
 - ◎ STA体験の紹介とディスカッション
 - ◎ 簡単な教育提案ワークショップ



STA研修のワークショップ

- 相手のレベルに合わせて
教えることの難しさを体験
(90分 5~6名ずつのグループに分かれる)
- **ワークショップのテーマ例**
小学校3年生にわかるような
『空気の重さがあることの実験』を考え
グループプレゼンテーションする

元ネタ ダイキン工業 「空気の学校」

http://www.daikin.co.jp/naze/html/b_7.html



TA担当者の養成

- 現時点では、組織的なTA養成はしていない
 - ◎各教員研究室所属者に声掛け
 - ◎担当科目受講者に声掛け
- 大学教員志望者のための科目(広義のTA養成)
「**大学授業開発論**」STA、STA志望者も多数受講
「**大学教員という仕事**」学部1年生対象
- 26年度2期より堀担当 大学院科目
「**学術的文章の作法とその指導**」
ライティング科目TA担当可能者養成の意図
- TAバンク? を設立したい



7. TAにうまくサポート してもらおうために



担当科目の人的資源必要量を 解析しましょう

- 科目全体で必要な仕事を洗い出す
- 教員でなくては担当できないもの、
STA・TFに担当してほしいもの
JTAが担当できるもの
SAでも担当できるもの
に分類
- (いつ、なにを、どこまでやるか)
明記した指示書をつくる
【口頭のみでの支持で済ませるのは避ける】



STA業務報告書の情報から

- 教員とTAの十分な情報共有がなにより大事
- アクティブラーニングのための活動を
主に担当してもらう
(グループワーク・ファシリテーションなど)
- 受講生からのフィードバック受付を担当してもらう
- 教材を一緒につくる
- JTAの指導をってもらう



8. ワーク2 グループワーク TA有効活用計画と 留意点情報共有

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

37



これからのTA活用計画 実施における留意点共有

ワークシートの下半分を使い、
本日得られた情報も参考にいただき、
今後のTA活用計画、
その際の教員・院生双方の留意点
を書き出してください。
(各自作業10分)

2015/9/7,8

(C) 2015 Kazunari HORI, Osaka Univ.

38



ワークシートに基づいて グループワーク

グループ内で、内容を共有してください。
グループ代表は、その内容を
ホワイトボードに書き出してください。

(10分)

発表時間、代表者は、グループで出た
内容を簡単に説明してください。

1グループ、5分くらいで収まるように



ご参加 ありがとうございます

平成 27 年度 大阪大学 FD フォーラム

研修 C 「授業で TA を活用するコツ」

STA 関連補足資料 STA 業務報告書内容の紹介

2015 年 9 月 7, 8 日

大阪大学 全学教育推進機構 堀 一成

補講を担当した事例（当該 STA は経験を評価されて教員に採用された）

(H24、国際公共研究科・D3 留学生・専門講義) 自分が理解できないことは、説明できないということを最初のセッションで気づいて、STA Session で説明が必要な内容を前もって出来る範囲で徹底的に理解しようと努力しました。その結果、

- 1) 本授業の全体的な内容を自分が受講生の時より深く理解することができ、
 - 2) 自分の言葉で他人にわかりやすく説明できるようになったのが、
- STA を通じて最も身についた能力だと思います。

(STA 特記事項) 今学期、授業担当教員に毎回どのように STA Session をリードしていけば良いかをチェックしていただき、STA 自身も勉強が出来る大変重要な機会になりました。授業担当教員には、授業準備の時間以外に STA を指導する時間を作ることが負担になるかと思いますが、授業担当教員のご指導は、STA にも、STA Session に参加する学生にも、大変重要だと思います。

(担当教員コメント) とくに STA セッション（毎週講義の次の日の休み時間に 60 分講義）に尽力してくれました。熱心な指導で学生からの評判も良かったです。今年の学生の理解度が例年よりも高いとすれば、一つの要因に彼女の TA セッションがあったと思います。

講義を担当した事例（教育者としての自覚と意欲が見られる）

(H25、工学研究科・D2・専門講義)

業務内容：座学形式の講義の進行補助、討議形式の講義のモデレーター役、教員代理としての座学形式の講義

工夫した点：討議に際して、学生からの要望が強かったチーム編成の変更やテーマの事前通知に応え、討議環境の改善に努めた。講義する際は、学生 が退屈しないよう、インパクトのあるスライド作成や間を持たせた話し方、小休止となる話の盛り込みを行った。

(STA 特記事項) 初めて 1 コマ分の講義をさせて頂くことで、これまでの学生目線から教員目線で講義をとらえることができた。将来教壇に立つ機会があれば、是非この経験を活かして充実した講義をしたいと思う。

(担当教員コメント) 教員と十分に議論をして、講義の学生討論のモデレーターを中心に業務をしっかりとこなしてくれました。特に、1 コマ分の講義は自らが内容を作成し、講義を行ったことは特筆に値します。アンケートでの TA の評価も総じて良いものでした。

演習を主体的に担当した例（教員との良い関係が築けている、STA の自覚が教育力を高める）

(H25、工学研究科・D1・専門演習) 演習課題やその解説を作成する際には、解答者（受講生）の理解を促すような情報を盛り込む必要があるため、より深く制御工学について知る必要があった。その結果、単なる独習のときよりも問題の細かな部分まで考察するようになり、制御工学に対する理解がさらに深まった。

(STA 特記事項) 自らも本学科で同講義を受講していたため、演習内容を担当教員と相談する際には、受講生に比較的近い立場で、課題の難易度や指導方法などに対して意見や提案を行うよう心がけた。

(担当教員コメント) 教員とのディスカッションを通じて、演習問題ならびに解説資料の作成や相互チェックに協力してくれました。また、受講生の理解度やモチベーションの状況について詳細な報告と提言をしてくれ、授業改善に大いに貢献してくれました。

指導者としての自覚が見られる例

(H25、工学研究科・D1・実験) モチベーションの下がりがちな学部 2，3 年次の学生たちと直に触れ合い、研究の意義面白味を伝え、将来の研究者の種を芽吹かせる指導者という立場にやりがいを感じた。

JTA 時代とは異なる姿勢で学生と接した例

(H25、工学研究科・D3・実習) 以前よりも「話し方」や「話の聞き方」など落ち着いて行えるようになった。学生に威圧感を与えないような会話の方法や、専門用語の解説も加えながら専門的な話にも言及していけるようになったと感じている。以前はなるべく簡単な言葉で説明しようところが出ていたが、私の専攻である建築に興味を持っている学生に対しては、詳しい説明を加えるようにし、興味を持ってもらえるようにした。

平成27年度 大阪大学 FDフォーラム 研修C 「授業でTAを活用するコツ」 ワークシート

大阪大学 全学教育推進機構 堀 一成 作成

ワーク1
これまでのTA活用でうまくいった点、うまくいかなかった点
◎ うまくいった点 (こうなればいいなという点)
◎ うまくいかなかった点 (困難が予想される点)
ワーク2
◎ 今後のTA,STA,TF活用の計画 (どの科目で、どのような形で活用できそうか、それにより、教員自身の負担軽減がどのようにはかれそうか)
◎ どのような点について留意するか ・教員が留意すること、院生に留意させること

(参加者 所属:

氏名:

)